

米取引に関する有識者との懇談会（第４回概要）

1. 日時：平成23年７月８日（金）10:00～12:00
2. 場所：農林水産省第３特別会議室
3. 論点：マンスリーレポート、ＤＩ、22年産米取引の状況など
4. 概要：

（22年産米取引の状況について）

- 昨年の出来秋以降、全体の需給状況に大きな変化はないが、コシヒカリなどの一部の銘柄については、すでに品切れになりつつあるものもあるとの意見。
- 現在の状況からすると、22年産米は品質や歩留まりも悪い中でそもそも供給が少なかったのではないかと。結果としては、政府備蓄米の買入れや販売環境整備米の措置等の対応は必要なかったのではないかととの意見。
- ３月の震災以降これまで、契約の進捗状況は前年に比べて早まっており、在庫も減少しているとの意見。
- 出回りの早い関東産コシヒカリがその年産の相場観を決定しており、そのほかの産地銘柄の価格に影響しているのではないかととの意見。
- 概算金の設定については、設定時に作柄・品質状況も含め需給状況全体の先行きが見えていたわけではなく、21年産の在庫が大量にあったことなど、その時点で収集できる情報に基づき設定しているとの意見。

（マンスリーレポート、ＤＩについて）

- 来月の販売価格の見通しＤＩにおいて、他の業種と比べ、卸売業者は来月の販売価格が高くなると見ていることについて、卸売業者の今後の価格上昇への期待感が出ているのではないかととの意見。
- 今月の在庫量の現状判断ＤＩにおいて、全体としては、先月と比べ、より在庫量の減少が続いているという見方が大宗を占めている中で、生産者の中にはこのような動きとは異なる見方があることについて、違和感があるとの意見。

（米の消費の動向について）

- ３月に震災の影響等で米の購入が一時的に増加したため、いわゆる家庭内在庫が増え、４月～６月の消費の落ち込みにつながったのではないかととの意見。
- 米消費の動態を年齢構成、男女別、地域別などより細かく調査するべきであるとの意見。

- 家計調査では、パンやめん類に大きな増減がないのに対して、米の購入量の減少が目立つ。さらに力を入れて、米の消費拡大に取り組むべきとの意見。
- 商品の価値と価格が合えば高い米でも購入する消費者がいる一方で、数年前から低価格帯のブレンド米も伸びてきており、消費の二極化が進んできている。コシヒカリなどのブランド米へのこだわりが小さくなっているのではないかと意見。
- 消費者アンケートにおいて、中食・外食での米の消費に減少傾向がみられるのは、東日本大震災以降のアンケート回答者の消費マインドの落ち込みで、中食・外食の利用が少なくなっていることが影響したのではないかと意見。

(米の試験上場の認可について)

- 先物取引において、現物の受渡しがあった場合に、産地品種銘柄についてミスマッチが生じることも懸念されるため、産地品種銘柄の調整を行い、ミスマッチを解消する仕組みが必要ではないかと意見。

(米の放射性物質調査について)

- 米の放射性物質調査については早めに情報提供し、周知を図るべきとの意見。

(その他)

- 次回は9月に開催する予定。

— 以 上 —